

【体が警告！ 背中への痛みを潜む病気】その痛みの原因はがん？ それとも…イコール膵がんではない 尿路結石や急性肝炎が原因 の場合も

健康・医療

2022/5/24 11:00

ストレスや暴飲暴食などが続いた後、背中が重く痛いと感じることはないだろうか。背中の痛みは、筋肉痛や骨の変形以外に、膵臓など内臓の病気が関わることもある。中でも、近年、肝臓の病気で背中の痛みを訴える人が少なくないという。専門医に話を聞いた。



その背中の痛み、まずは原因を探ろう

内臓による背中の痛みといえば、「膵がん」を連想する人もいるだろう。膵臓は胃の裏側に位置し、膵がんになっても初期段階では無症状だが、進行がんになると、高血糖による糖尿病の悪化に加え、腹部の違和感、背中の痛みなどに見舞われるからだ。しかも、国内の膵がん患者は増加傾向といわれる。そのため、筋肉痛など心当たりのない背中の痛みが続くと、「膵がんかもしれない…」と不安を抱く人がいるのだ。

「内臓によって引き起こされる背中の痛みは、膵臓、十二指腸、腎臓といった後腹膜腔（こうふくまくくう）に位置する臓器によることが多い。ただし、膵がん以外にも膵臓の病気はあり、放散痛といって離れた臓器による痛みのこともあります。背中の痛みが、イコール膵がんとはいえません」

こう説明するのは、東邦大学医療センター大橋病院消化器内科の渡邊学臨床教授。長年、数多くの患者の診断・治療を行っている。

後腹膜腔とは、文字どおり腹膜の後ろを指す。腹膜は胃や小腸などを包んでおり、その膜の後ろに位置するのが、膵臓、腎臓などの臓器である。そのため、急性膵炎で膵臓に激しい炎症が起こると、胃の上の辺りや、背中にも激痛が走るケースが見られる。また、膵がんでは膵臓から飛び出した腫瘍が膵臓周辺の神経に悪影響を及ぼし、背中の痛みを引き起こす。

一方、腎臓や尿管に生じた結石で発作を起こす尿路結石でも、左・右の脇腹から背中にかけて激痛が走る。このように、背中への痛みは、脾臓もしくは腎臓が原因といたいところだが、肝臓でも背中が痛むことがあるという。

「背中が痛いという患者さんをクリニックからご紹介いただくと、もちろん、脾がんのこともあります。急性肝炎（別項参照）が原因のことも珍しくはないのです」

急性肝炎は、主にウイルスによって肝臓に炎症が起きる病気だ。肝臓は身体の中で最も大きい臓器であり、脂肪肝やそれに伴う非アルコール性脂肪肝炎では、無症状のことが多い。だが、ウイルス性の急性肝炎では、炎症が急激に広がるため、右の脇腹から背中へかけて痛みが現れやすいのだ。

「急性肝炎の炎症では、肝臓が膨らんで肝臓を覆う肝被膜（かんひまく）が伸びることで、腹部や背中への痛みにつながります。急性肝炎のウイルスは、食習慣によって感染することもあるので注意しましょう」

それについては、あす詳しく紹介する。（取材・安達純子）

■渡邊学（わたなべ・まなぶ） 東邦大学医療センター大橋病院消化器内科臨床教授。1981年東邦大学医学部卒。米・南カリフォルニア大学肝臓病センター留学、東邦大学医療センター大森病院消化器内科准教授などを経て、2017年から現職。肝臓病の診断・治療、特にIVR（インターベンショナルラジオロジー）治療を得意としている。

■ウイルス性の急性肝炎とは 急性肝炎を引き起こすウイルスは、A～E型、EBウイルス、サイトメガロウイルスなどがある。発熱や黄疸、食欲不振、腹痛などの症状を伴うが、B型やC型は、自覚症状に乏しいまま慢性肝炎に移行することもある。A型とE型は、食べ物を介して感染し、B型、C型、D型は、主に血液を介して感染。EBウイルスはキスやスプーンの使い回しなどの経口感染、サイトメガロウイルスは母子感染や性行為などによる感染と、感染経路もさまざま。